

## 第6回

東京女子医科大学病院  
医療連携講演会・懇親会

Thema 「新たな連携をめざして」

Schedule 平成29年9月28日(木)  
19:00～21:00Place 京王プラザホテル  
43階 ムーンライトOther info 講演会・懇親会のお問い合わせは、  
社会支援部(☎03-5269-7067)で  
お受けしています。

## Program

## 第1部 19:00～20:00 【講演会】「新たな連携をめざして」

1. 開会の挨拶(東京女子医科大学病院 病院長 田邊一成)
2. 新たな体制についての紹介  
統合ICUの設置について(集中治療科教授 野村岳志)  
救急外来での患者受入拡充について  
(救命救急センター教授 矢口有乃)  
総合診療科の体制について(総合診療科教授 川名正敏)
3. 新任診療部長の紹介  
整形外科教授・講座主任 岡崎人賢  
呼吸器外科教授・講座主任 神崎正人  
糖尿病代謝内科教授・講座主任 馬場園哲也

## 第2部 20:00～21:00 【懇親会】来賓のご挨拶

## 医療安全コラム&amp;トピックス

医療安全科教授 寺崎 仁

## —— 第1回 ハイน์リッヒの法則 ——

今号から3回にわたり、医療安全に関する小文を書かせていただきます。

第1回目の今回は、医療安全の分野では非常によく知られている「ハイน์リッヒの法則」です。この法則は、医療に限らず安全の分野ではよく取り上げられますが、数式や理論として導き出された自然界の法則ではなく、人間の社会生活の中で発生する出来事を観察した結果から導き出された、いわば経験則ともいべき内容です。

今から約90年前に、アメリカの損害保険会社に勤めていたハイน์リッヒという調査員が、労働災害の内容を詳しく分析してこの「法則」を発見しました。その内容は、1件の重大事故が起こった背景には、約29件の軽傷で済んだ同種の事故が起こっていて、さらにその背後には約300件の無傷で済んだ類似の事故が起こっている、というものです(図)。もっと言えば、さらにその下に隠れているものとして「数千のハザード」すなわちほとんど事故として表面化していない「不安全行動・不安全状態」があるというものです。

よって、1件の重大事故が起こった場合、類似の事故が過去に多数起こっていて、たまたま怪我をせずに、あるいは軽い怪我を負っただけで済んでいたに過ぎ

い、と考えるべきではないかというものです。そこから、怪我をしなかったとしても、ヒヤリとしたりハッとした危険な出来事の情報を集めて、再発防止の対策を講じておけば、もしかしたら重大な事故が防げるかもしれない、というインシデントレポートの仕組みが考え出されるようになったわけです。

このインシデントレポートシステムは、航空業界などではいち早く取り入れられましたが、医療界では、1999年の横浜市大患者取り違え事件の後で、それまでは日本の病院では組織的に医療安全に取り組むことは、ほとんど行われてきませんでした。最近では、インシデント発生後に再発防止を考えるのではなく、予め事前にリスクを評価して、事故防止対策を考えることも言われるようになってきました。しかし、事前に様々な危険を予測することには限界があり、殊に相手が人間であればなおさらで、経験から学ぶという先人の知恵は、いつの世でも大切にしなければならないのかもしれません。



## 女子医大便り

2017年夏号

TOPIC 01\_中央手術室の紹介 02\_新任教授挨拶 03\_新任教授挨拶 04\_研究会&amp;講演会紹介/医療安全コラム&amp;トピックス



## 中央手術室のご紹介

医療安全対策部門 副院長  
野村 実

2017年7月3日より中央病棟に19室21床の新しい手術室が増築されました。従来、心臓血管外科、消化器外科、脳神経外科は西病棟手術室で手術を行っていましたが、基本的には新手術室に移行、統合されることとなります。また、手術だけでなく周術期管理においても統合された集中治療室で行われます。したがって元々専門性の高い診療科の診療体系がさらに横断的に協力体制を組むことが可能となり、より安全性の高い医療が提供できるようになるものと考えております。このプロジェクトは田邊病院長就任時からの悲願でありました。実現には付随する多くの移転や改修が生じ、また内科系の診療科や放射線部門、病理診断部門などの中央部門の多くの協力をいただきました。

新手術室の運営には今後も多くの診療科同士の協力体制が求められていき、新しい感覚や視点が要求されると考えます。当院の周術期における安全面の充実に向けて、職員一丸となって取り組んでいくことをご報告申し上げます。

📢  
新任教授 ごあいさつ



集中治療科 教授  
野村 岳志

新設された集中治療科に、この4月着任いたしました。集中治療科は安全に高度集学的医療の提供を可能とするため多くの大学で新設されてきております。病棟再編成後には18床の集中治療室（ICU）と15床の高度治療室（HCU）で治療・運営を行います。高侵襲の手術をうける患者さんの手術後管理、また治療中に併発した重篤な病態の患者さんの治療など、東京女子医科大学の高度医療を期待してこられる患者さんに最善の治療を提供できるようにと考えております。日々変化する患者さんの病態、治療の方向性を多職種カンファレンスで検討しコミュニケーションのよい環境で安全な集中治療を行って参りますので、どうか宜しく願い申し上げます。



整形外科 教授  
岡崎 賢

九州大学より4月から赴任してきました。専門は膝関節外科で、変形性膝関節症に対する人工膝関節置換術や骨切り術を得意としています。また、スポーツのケガで多い前十字靭帯損傷や半月板損傷、軟骨損傷に対する関節鏡視下手術も専門としています。ともに高い患者満足度を得るための手術手技に関する研究を積み重ね、最新・最良の治療を行うよう心がけてきました。紹介を頂いた患者さんは、なるべく早く回復させて、満足して頂いて紹介元にお返しするよういたします。また、当科には脊椎、肩、股関節、手の外科、骨軟部腫瘍ともに専門スタッフがそろっています。東京女子医大整形外科を引き続きよろしく願いいたします。



呼吸器外科 教授  
神崎 正人

このたび外科学（第一）の教授・講座主任を拝命し、身の引き締まる思いです。侵襲が少なく、繊細な手術操作が要求される胸腔鏡手術を中心にチーム全員の外科治療を推進したいと考えております。特に、肺癌は集学的治療が重要であります。胸部異常陰影の精査から外科治療、さらには転移、再発に対する放射線治療、化学療法というように患者一人ひとりに安全で、最良の治療を提供してまいります。また、大学病院として、合併症を有する症例では他科と連携して対応しています。そして、集学的治療においては、周辺医師会との地域連携が不可欠であり、今後より一層地域連携を強化してまいります。どうぞよろしく願いいたします。



糖尿病代謝内科 教授  
馬場園 哲也

内潟安子教授の後任として、4月1日に就任いたしました。糖尿病専門医の役割は、血糖値の良好な管理にとどまらず、慢性合併症の予防と治療にまでおよびます。そのため当センターでは、腎症、神経障害、心臓病、末梢動脈疾患、肥満・脂質異常症、妊娠、小児・ヤング糖尿病、高齢糖尿病、遺伝子医学などのサブスペシャリストがそれぞれの合併症や病態に対応して診療しています。また網膜症などの眼合併症に対し、内科医と眼科医が密に連絡をとって診療にあたっています。内科および眼科医局員、さらにはメディカルスタッフ一同、努力いたす所存です。各方面からのご支援、ご指導、ご鞭撻、さらにはご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。



産婦人科 教授  
熊切 順

産婦人科学講座の教授に、この4月より着任しております。着任前は順天堂大学産婦人科学教室にて生殖内分泌学と専門技術として婦人科内視鏡手術を積極的に行ってきました。近年における外科手術の低侵襲化の進歩はめざましく、婦人科領域においても悪性腫瘍に対しての保険適用やロボット補助手術の先進医療なども相まってほとんどの手術が内視鏡手術で行えるようになってきています。また内視鏡手術は体への負担が少ないことから希望される患者さんも少なくありません。東京女子医大・産婦人科への内視鏡手術の本格導入により多くの患者さんに負担の少ない低侵襲手術が提供できるよう鋭意努力いたしますので、どうぞよろしく願いいたします。

感染制御科 教授 満田 年宏

この度、新設された『感染制御科』の教授に2017年3月に着任致しました。前職は横浜市立大学附属病院で感染制御部部長をしておりました。長い間培ってきた感染制御のノウハウを歴史ある東京女子医科大学病院のこれまでの取り組みと融合し、東京女子医科大学病院における安心・安全な医療体制のさらなる向上に努めて参ります。新型インフルエンザやMERSのような新興再興感染症発生時など予見できない新たな感染症の脅威に対しても適切な対応がとれるよう、取り組んで参ります。感染対策には地域の医療機関の皆様との連携が必須ですので、どうぞ宜しくお願いします。

医療機関からの  
診療のご予約は  
右記でお受けしております。

☎ 03-5269-7160

☎ 03-5269-7387

受付時間：平日 午前9時～午後5時

休診日：第3土曜・日曜・祝日、  
創立記念日（12/5）、  
年末年始（12/30～1/4）

※ 当院ホームページ「医療関係者の方へ」  
のFAX申込書をご活用ください。